旧会田中学校記録保存調査報告書



令和７年3月（令和８年３月追加）

松 本 市
公益社団法人長野県建築士会



位置図　　出典　国土地理院

旧会田中学校



虚空蔵山・会田宿全景　　殿村遺跡発掘調査資料より



1.旧会田中学校第三校舎外観正面(西面)　　令和6年(2024)11月



2.旧会田中学校第三校舎外観(北面)　　令和6年(2024)11月



3.第三校舎玄関内観(職員玄関西面)　　令和6年(2024)11月



4.第三校舎内観(廊下東面)　　令和6年(2024)11月



5.和裁室（西面）　　令和6年(2024)11月



6.会議室（北面）　　令和6年(2024)11月

例　言

1　本書は令和6年4月から令和8年3月まで行われた、「旧会田中学校」の調査報告書である。

2　松本市教育委員会から公益社団法人長野県建築士会が委託を受け、長野県建築士会松筑支部が調査を実施した。

3　調査は「旧会田中学校第三校舎」の建築及び史料の調査を行い、記録保存を目的に実施された。

4　掲載の写真については、特記のないものは調査者の撮影による。

5　調査担当者・写真撮影担当者・執筆担当者は以下のとおりである。

・建物調査及び写真撮影(五十音順)

川島智隆　　野口大介　　藤松幹雄

・報告書作成(図面作成含む)

川島智隆　　野口大介　　藤松幹雄

6　本書の作成に当たり、次の方々、団体からご指導、ご協力を賜った。

国宝旧開智学校校舎　学芸員　遠藤正教

昭和30年度（1955）第３回卒業生　小澤茂基

株式会社草田組　土木部　狩野　雄

凡　例

1　本文の用語は、現代仮名遣い、常用漢字を原則とした。ただし、固有名詞・専門用語と、一部特別な表現については、その限りではない。

2　本文の寸法標記は、原則としてメートル法を用いた。

3　年号は原則として和暦年号を用い、西暦年号を(　)書きで併記した。

目　次

位置図
口　絵
例　言
凡　例

1　調査の目的と概要
　(1)調査の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　(2)調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2　敷地の概要
　(1)松本市四賀地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　(2)旧会田中学校建設地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3　沿革
　(1)明治時代 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　(2)大正時代から戦時中 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　(3)戦後の教育 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
4　配置と建築の特徴
　(1)敷地と建築の構え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　(2)建築の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
5　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
6　参考文献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
7　写真 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
8　解体中調査
　(1)目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
　(2)構造軸組み調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
　(3)屋根瓦、外壁調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
　(4)中間調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
　(5)基礎調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

図　面
資　料

1　調査の目的と概要

(1)調査の目的

昭和22年(1947)の教育基本法と学校教育法により、現在の中学校が誕生し会田中学校が発足した。会田中学校舎は昭和28年(1953)４月第一校舎・第二校舎が完成。会田村他三ヶ村組合立として開校し、同年第三校舎、校庭宿直室、給食室等が完成し、学校の形態がほぼ整う。昭和30年(1955)四賀村発足に伴い、二年の組合立に幕を閉じ、四賀村立会田中学校となる。

平成11年(1999)敷地を北に移し会田中学校移転新築工事が起工。平成12年(2000) 新校舎が竣工する。
学びやとして役目を終え校舎群は解体されたが、村民の要望もあり内2棟が四賀村重要文化財に指定された。その1棟である第三校舎が現存し、木造校舎の数少ない大規模木造建築例として残されている。

本調査では、長年中学校の校舎として愛され、旧四賀村重要有形文化財に指定された校舎について現況を確認し学校としての遍歴等の記録を収集、記録をした。

(2)調査の概要

調査対象の概要

名　　称	旧会田中学校（第三校舎）
棟　　数	１棟
所 在 地	松本市会田580番地
構造/形式及び 建築面積	木造/瓦葺 地上２階 建築床面積850.04㎡
所 有 者	松本市
建設年/大規模改修等年	昭和28年(1953)/なし

本調査は、松本市教育委員会文化財課の発注にて、公益社団法人長野県建築士会が受託、長野県建築士会松筑支部が調査を実施し、令和６年(2024)4月から令和7年2月(2025)を中心に、現地確認及び写真撮影、史料収集を行い、まとめたものを印刷物およびデジタルデータ(DVD)で納品した。史料収集は、松本市立博物館、松本市立図書館、松本市文書館、国会図書館デジタルライブライブラリーを主として行った。

2　敷地の概要

(1)松本市四賀地区

四賀地区は松本市の東北部に位置し、標高1,629mの戸谷峰を最高に四方を山に囲まれ30の集落が散在。
東は青木村、西は安曇野市。北は筑北村に接し、地区面積は90.25ｋ㎡、その82%が山林である。昭和30年(1955)4月に会田村・五常村・中川村・錦部村の4村が合併し四賀村が誕生し、平成17年（2005）４月に松本市に編入。

フォッサマグナ地帯が海底だった証である海産の化石が多く産出され、四賀化石館に展示されている。また、戦国時代の山城跡や旧街道の宿場町が残り、歴史的な面影が感じられる地域である。
特産では特に「松茸」が有名である。

(2) 旧会田中学校建設地　殿村

四方を山で囲まれた山村の地で、ひときわ目立つのが虚空蔵山、別名会田富士。その裾野に広がる会田盆地には長安寺（現存セズ）や補陀寺跡をはじめ、広田寺、無量寺、岩井堂、岩屋神社など、虚空蔵山麓には多数の寺社があり、いずれも古代や中世の起源にさかのぼる。古からの信仰の山として人びとの祈りを集めた虚空蔵山を頂点に、かつて会田の一帯には信仰の空間が広がっていたと推測されている。その一角にある殿村に会田中学校が建てられていた。殿村遺跡調査は平成20年(2008)から行われ、室町時代(15～16世紀）の大規模な造成跡が旧会田中学校校庭から出土している。中世殿村には、会田盆地を治めていた豪族会田海野氏の館があったと伝わっており、会田氏の城下町が形成されていた。武田氏滅亡後に深志城をとりもどした小笠原貞慶に攻められ会田氏は滅亡する。近世になり松本に石川氏入府後は松本の城下町整備が進み、善光寺平と松本を繋ぐ善光寺街道（北国西脇往還）の宿場町となり賑わっていた。



虚空蔵山と会田宿


旧会田中学校庭


長安寺参道

出典「木造校舎」


殿村遺跡


会田宿

3　沿革

(1) 明治時代

明治元年(1868)の四賀地区は江戸時代からの天領（幕府領）で、松本藩御預り領二十七ヶ村から成り、明治時代には村は旧幕府時代の名主が長として納めていた。明治維新によって明治元年（1868）名古屋藩取締所の所管となり、翌２年（1869）6月伊那県の設置によってその管下になった。教育における家塾・寺子屋の分布は錦部15、中川14、錦部15、中川14、会田15、五常8の合計52とあり、学制発布時の庶民の教育は熱心であった。

明治４年(1871)11月廃藩置県後、筑摩県が成立。その管轄となり、明治9年(1876)8月長野県となった5年間には、学校を創設して子弟の教育がはじめられた。

明治5年(1872)8月3日学制発布されたが、四賀地区では同年７月に刈谷原学校が開校している。これは筑摩県の初代権令の永山盛輝の熱心なすすめによる力が大きかった。県がすすめる学校建設をうけ四賀地区から8校の設立願いがだされ、明治5年(1872)から7年(1874)にかけて開校する。校名は村名でなく思い思いの校名を附している。その中の一校、思誠学校（後の会田小学校）に隣接し、後に会田中学校が開校する。

明治12年(1879)9月29日教育令が発布され学制を廃し、数町村連合の公立小学校を設けることとした。小学校教則により、小学校は初等三年・中等三年・高等二年の八年とした。

明治21年(1888)4月市町村制の交付により、明治22年(1889)4月会田・五常・中川・錦部の四ヵ村誕生。改正小学校令、明治22年（1889）4月町村令施行により村名を冠した尋常小学校に代わる。

明治28年(1895)5月28日開校式が行われ、会田村立会田尋常高等小学校が発足した。

明治41年（1908）4月小学校令施行。尋常小学校の修業年限は6年に延長、高等小学校の修業年限は2年とした。この義務教育延長により児童数が増加、校舎の増築新築が行われた。

明治43年（1910）会田村は306坪（新築）、20坪増築をしている。



會田學校思誠館開校80年誌表紙

(2)大正時代から戦時中

大正デモクラシーと称された自由教育時代を経て、軍国主義的に移行した時代

人口の増加もあり児童の就学率も上昇、校舎施設の拡充が進む。

大正15年（1926）会田小学校203坪新築

昭和8年（1996）283坪新築

昭和16年（1941）3月1日小学校令を改正して、国民学校令を公布4月より実施

アメリカの空襲が激しくなり、東京都世田谷区北沢国民学校初等科の児童が疎開

昭和20年（1945）終戦

昭和21年（1946）連合軍の指令をうけ、わが国の教育を根本的に改革

(3)戦後の教育（六・三制教育の発足）

昭和22年（1947）3月31日教育基本法及び学校教育法公布

小学校６年、中学校３年、高等学校3年、高等教育として大学4年とし、小中学校を義務教育とした。

同年4月から新学制が実施、四賀地区に新制中学校４校が新設されたが、何れも小学校に併設された。

昭和23年（1948）7月1日教育委員会公布

昭和25年（1950）会田村・五常村・中川村・錦部村の四ヵ村組合立中学校の設立協議

各村民間に賛否両論交錯し、一時見送り。

昭和27年（1952）四ヵ村民の世論設立に統一　10月16日建築を決定　10月26日新校舎建設請負契約

嶺間職工組合代表草田組と結ぶ。請負契約金額14,950,000円11月27日起工式を行う。

会田中学校体育館の位置あった１棟（第二校舎）を曳家・移轉し、第一校舎を新築。



昭和27年12月基礎工事



昭和27年12月第二校舎曳家工事



昭和２９年旧会田小中学校敷地図



昭和28年2月第一校舎建て方工事



昭和28年4月第一校舎完成

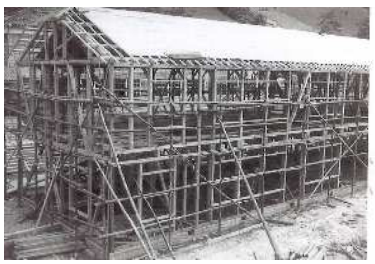
工事写真４枚　出典「木造校舎」

昭和28年（1953）4月11日第一校舎、第二校舎（移轉）完成、開校式

嶺間四ヵ村組合立中学校として開校。

昭和28年（1953）第三校舎他、校庭、宿直室、公仕室、給食室、自転車置場、

雑用水道が完成　学校の形態がほぼ整う。



昭和28年５月第三校舎建て方工事



昭和２９年１０月完成

工事写真２枚　出典「木造校舎」



出典　会田中学校五十年誌

昭和29年（1954）2月8日講堂、音楽室、校庭のバックネット他完成落成式

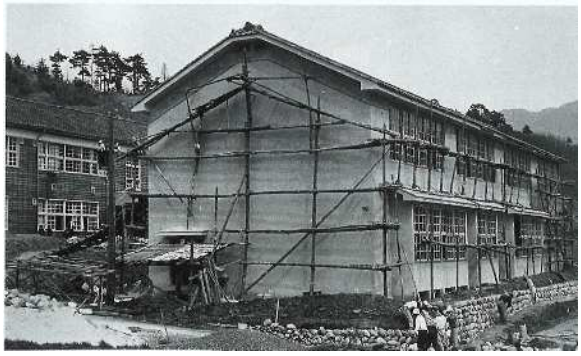
昭和30年（1955）4月1日四賀村発足に伴い、四賀村立会田中学校となる

昭和31年（1956）6月2日第四校舎建築　図画・工作・農産加工・調理・同準備室の改築落成式

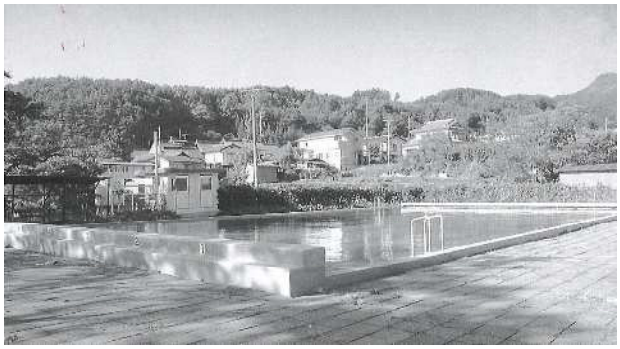
昭和38年（1963）プール竣工

昭和41年（1966）養護学級開設

昭和46年（1971）8月8日校庭に夜間照明施設整備



第四校舎　出典「会田中学校五十年誌」



プール　出典「木造校舎」

平成11年（1999）会田中学校改築工事　安全祈願祭

平成12年（2000）12月12日会田中学校新築校舎竣工式

同年12月18日木造校舎お別れ式（会田中学校生徒会主催）

木造校舎お別れ式以降、第一校舎、第三校舎を残し解体

平成13年（2001）1月9日新校舎開校式

平成16年（2004）2月27日会田中学校跡地に屋内ゲートボール場建設工事起工式

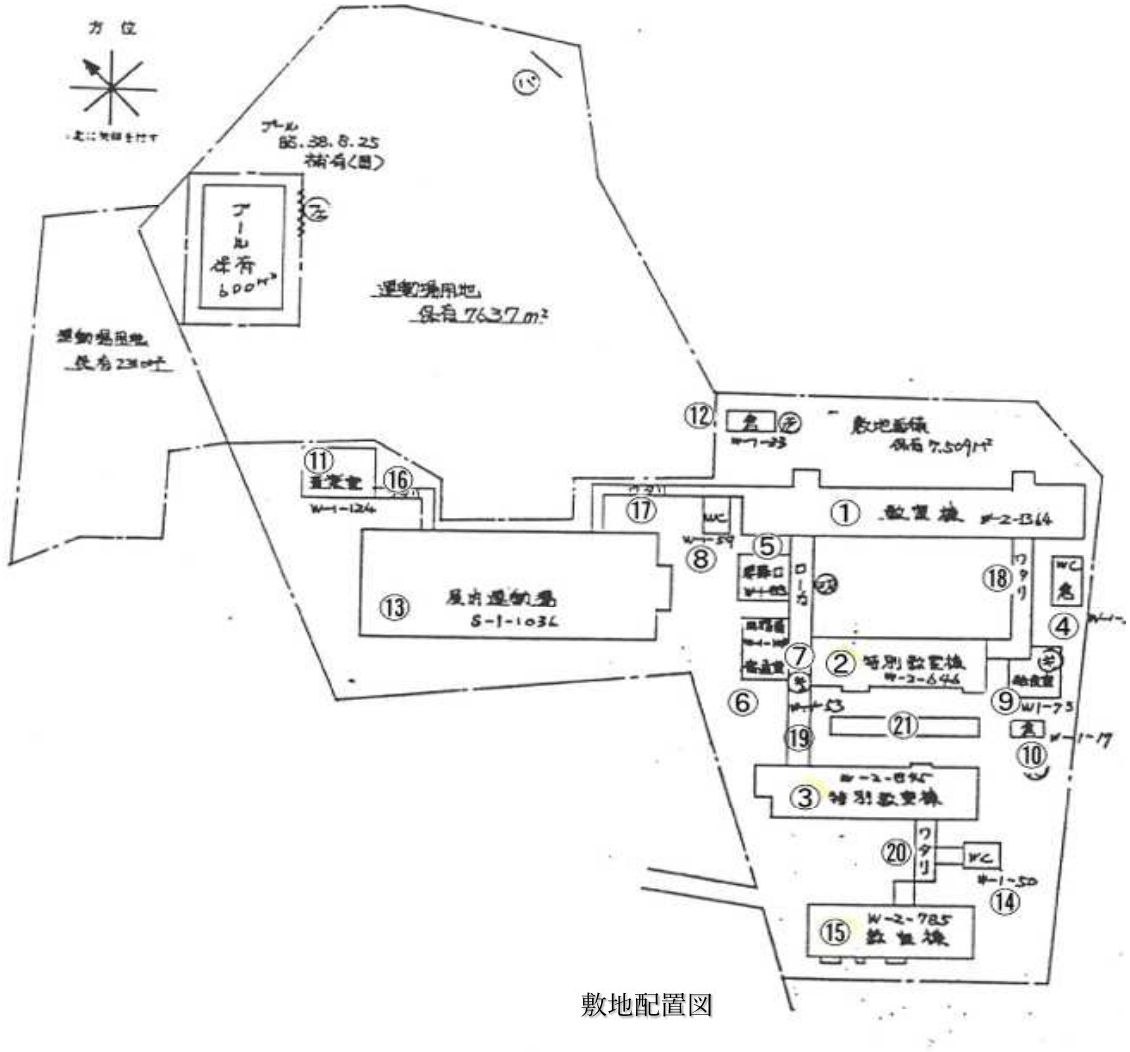
平成28年（2016）第一校舎解体

4　配置と建築の特徴

(1)敷地と建築の構え

校舎位置　標高640ｍ　東経137度59分48秒　北緯36度20分58秒

校地　総面積15,717.9㎡　校舎敷地6,936.6㎡　運動場8,781.3㎡



敷地配置図

建物別用途

①第一校舎　②第二校舎　③第三校舎　④便所　⑤昇降口　⑥宿直室　⑦廊下　⑧便所　⑨給食室　⑩倉庫 ⑪音楽室　⑫倉庫　⑬体育館　⑭便所　⑮第四校舎　⑯渡廊下　⑰渡廊下　⑱渡廊下　⑲渡廊下　⑳渡廊下 ㉑駐輪場 その他　運動場　プール

虚空蔵山の裾野、南西斜面の敷地には南北に高低差が16mほどあり（国土地理院地図より推測）、校舎は棚田状の敷地に分棟形式に建てられ、第一校舎・第二校舎以外は各棟、階段で上下する渡廊下で繋いでいる。



右：階段状の渡廊下⑲　出典「木造校舎」

(2)建築の特徴

ア．旧四賀村重要文化財に指定された経緯

名称　旧会田中学校校舎2棟　　第一校舎（教室棟）第三校舎（玄関・職員室・和裁室）

＊新校舎建設は、旧校舎が危険校舎（昭和28年（1953）建築）のため敷地を移して新築。危険校舎（旧会田中学校）は、新築開校後解体が条件（国庫補助）であった。

＊第二校舎、第四校舎、渡り廊下解体、第二校舎跡地はゲートボール場、第四校舎跡地は駐車場とした。

平成13年（2001）1月現会田中学校開校

（ア）平成12年（2000）５月22日付で諮問

諮問理由

a.六三制の実施により適正規模の中学校が求められ、四ヵ村の組合立中学校として建設された。以後、たくさんの人材を世に送り出してきた校舎である。卒業生から保存の要望が頓に高まっている。教育史の上からも、村史の上からも重要な建物と思われる。

b.最近殆どの木造校舎が取り壊され、無くなってきてしまっている。木造校舎としては稀少価値が高く、文化財として今後保存していく必要があると思われる。

c.村民から民具、書画、民族資料等の寄贈があった。その整備、保存、展示する場として、旧校舎が最適であると思われる。

（イ）四賀村重要文化財の指定

平成14年（2002）6月12日「会田中学校校舎2棟」が、四賀村文化財審議委員会にて、重要有形文化財として村指定しすることが必要と認め、答申され6月13日付で告示された。

指定理由　（四賀村教育委員会告示８号）

「近隣に木造校舎が残っていない。村民の大半がこの校舎の卒業生であり、愛着があり校舎を後世へ残したい。」の思いから村は、県・国へお願いし文化財として残すこととした。危険校舎のため、不特定多数の出入りはできないので、指定後は、倉庫として活用。市町村合併により、合併記念館（歴史民俗資料館併設）として活用するため、四賀50年の資料を搬入。

（ウ）市・村指定文化財調整方針

四賀村の指定文化財は文化・歴史的経過を考慮し、合併後市指定文化財として指定する。

（エ）第一校舎解体

松本市合併後、文化財として協議したが、昭和中期の建造物は指定事例がなく、文化財指定を見送ることになった。

平成28年（2016）9月30日解体終了

請負業者　株式会社みすづ建設



右：平成28年解体報告書より

イ．第三校舎

1階	440,136 ㎡	設計	縣建築係
2階	409,090 ㎡	施工	嶺間職工組合代表　草田組
計	850,045 ㎡		

昭和28年（1953）第一校舎、第二校舎につづいて第三校舎落成

第三校舎は、職員玄関・事務室・職員室・校長室・放送室・和裁室・会議室・情報室と教職員や来客を迎える、会田中学校の顔とも言える管理機能を踏まえた校舎である。



校舎全景　出典「会田中学校五十年誌」

（ア）外観



第三校舎玄関　出典「木造校舎」



西側前面道路より見上げる　出典「木造校舎」

屋根は桟瓦葺き総2階建。外壁は横板張で軒下廻は見切られ漆喰が塗廻されている。切妻屋根の先端を切落した洋風的なデザインが特徴で、管理棟として意匠的に格づけされている。玄関ポーチを中央に配置する校舎が多いなかで、会田中学校校舎は道路に面した妻側に配置し、厳しい敷地条件を克服し、山村ならではの来客への配慮がうかがえる。玄関ポーチの屋根は急勾配で平瓦が葺かれ、棟瓦の先端には洋館に用いられる塔の頂部に付く意匠的な瓦をのせている。あわせて低い位置に庇がめぐらされることで、親しみを感じる構えとなっている。戦後復興期の苦しい時期に建てられたと想像するが、開かれた学校をめざしたことがうかがえる。

第三校舎南面に第四校舎への渡廊下接続部分がり、その出入口周囲の外壁はモルタル塗りで防火性能が高められている。第四校舎は昭和31年（1956）校地の最南端、第三校舎より一段下がった敷地に建設された。昭和26年（1951）の初期計画案では、講堂が計画されていた位置でもある。



第三校舎東面



第三校舎南面

玄関ポーチ：壁・天井漆喰壁・腰壁に鉄平石貼り





玄関ポーチ「木造校舎」より

教職員と来客が主に使用する玄関

右脇の小窓は事務所受付窓

天井:漆喰で表情を変えている





◁ポーチ床：鉄平石貼り

（イ）渡廊下

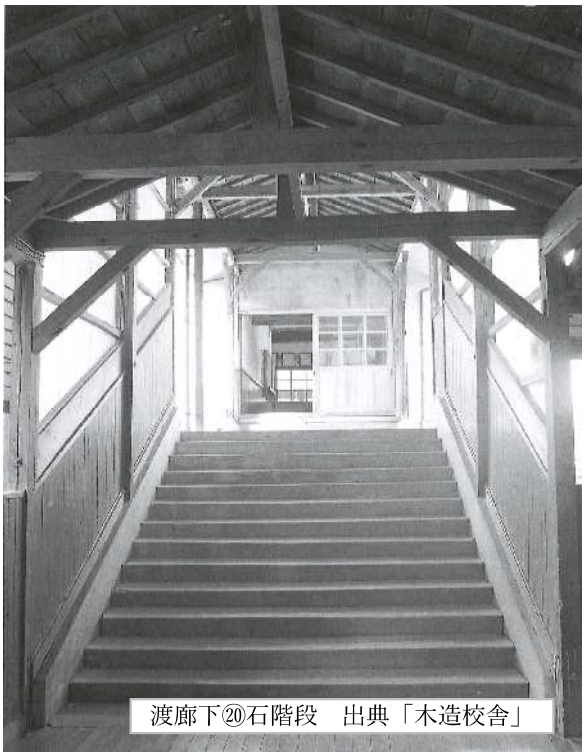
旧会田中学校校舎の大きな特徴は、各校舎を結ぶ六か所の渡廊下である。内４か所は階段があり敷地の高低差を解決している。校地内には公道があり生徒の動線と車道の交差を地下道で解決している。


渡廊下⑲外観「木造校舎」より


渡廊下⑲下り「木造校舎」より


渡廊下⑲上り　出典「木造校舎」


渡廊下⑰地下道　出典「木造校舎」


渡廊下⑳石階段　出典「木造校舎」


渡廊下⑰　出典「木造校舎」


音楽室への渡廊下⑯　出典「木造校舎」

（ウ）玄関・廊下・階段室「市松張りの合板格天井が特徴的である」



玄関ホール東面



玄関ホール西面



1階廊下東面



１階廊下西面



階段室１階



階段室２階

（エ）事務室・職員室・校長室・放送室・保健室「合板天井ペンキ仕上が特徴」



事務室南面



事務室北面



職員室西面



職員室南東面



校長室西面



放送室



保健室南東面



保健室北面

（オ）特別教室「市松張りの合板格天井が特徴的である」



和裁室西面



和裁室東面



和裁室南面



和裁室床の間



会議室西面



会議室東面



２階情報室東面



２階情報室北面

（カ）建設時の建築技法

戦後の財政難の中で建設されたと思われる。小屋組みは木造トラス梁を方杖で支持し、大スパンを可能にしている。関東大震災や空襲を経験し耐火性能が強化されはじめた時代でもある。戦後の木造校舎は類例がすくない。木構造の詳細調査は解体時の二次調査で行う予定。





２階和裁室は１０ｍのスパンがあり、梁端部に方杖をつけ補強している。折り上げ天井にし、方杖を隠している。２階会議室では方杖を合板で挟みくるみリブ状の意匠としている。





１階天井も２階床梁を支える方杖を隠した意匠としている。天井は竿縁を大きめのグリット状に組んだ合板仕上。壁はきずり下地の漆喰仕上。腰壁を縦板張りとしている。床は無垢の木製フローリング張り。生徒が水拭きで雑巾がけをしていた。



１階より２階床下を見る

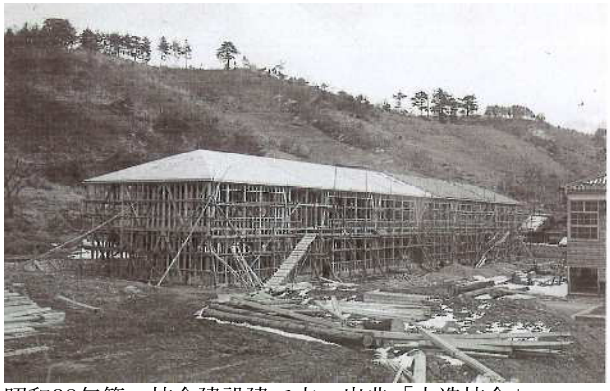


きずり下地の塗壁

イ．第一校舎

１階	690,080 ㎡	設計	縣建築係
２階	681,799 ㎡	施行	嶺間職工組合代表　草田組
計	1,371,876 ㎡		

昭和28年（1953）4月11日第一校舎完成



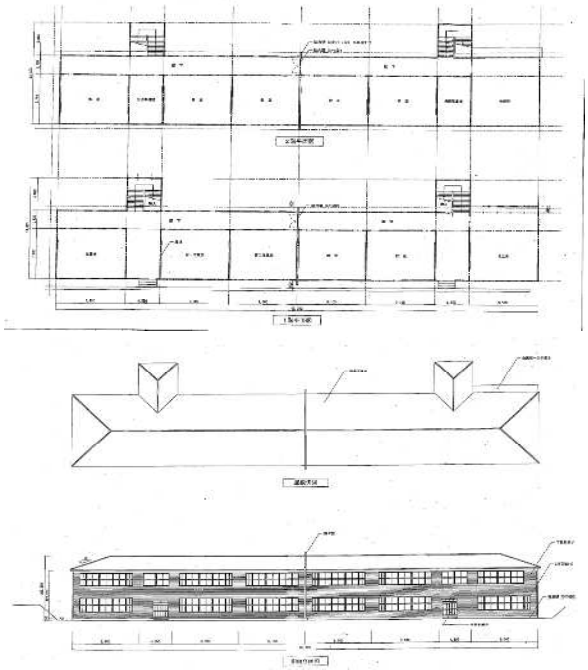
昭和28年第一校舎建設建て方　出典「木造校舎」

平成28年（2016）９月解体完了



昭和28年第一校舎完成　出典「木造校舎」

第一校舎（教室棟）は普通教室と養護学級・木工室・洋裁室・美術室・準備室があった。木造２階建・桟瓦葺き寄棟・軒下を漆喰で塗廻して外壁は横板張、外につき出た棟中央部の防火区画が特徴。平成28年（2016）9月解体工事報告書の写真から小屋組みの構造を木造トラス構造と確認した。



会田中学校第一校舎平面図・立面図



第一校舎南西面解体報告書より



平成28年解体報告書より



階段室　出典「木造校舎」

片廊下より避難階段が、北に２ヵ所突き出したかたちで配置されている。校舎棟の最北端には４ｍを超える高低差があり、階段の踊り場がその高低差を利用して建てられた。

エ．第四校舎

１階	690,080 ㎡	設計	須澤設計事務所
２階	681,799 ㎡	監理	須澤設計士・小原設計士
計	1,371,876 ㎡	施行	宮尾建設株式会社（上水内郡信州新町）

昭和31年（1956）6月2日落成

昭和30年（1955）8月2日県義務育課長が視察。特別教室が向後10年の生徒数増減をみて、９から８室が不足するとの見解を受ける。第四校舎は1階特別教室と2階教室棟として新築、１階、理科生物、地学教室、理科物理化学教室、準備室、普通教室、２階、普通教室４室を新設され、既存校舎の一部を改造し、特別教室を増やしている。

第一校舎の１階東端を改造し木工室、2階東端図書室を美術室とした。第二校舎の1階を家庭科調理室と農産加工室及び両室の準備室、2階の2室続けて図書室、西の部屋を社会科資料室に、第三校舎の第二音楽室を保健室に、第二音楽室は第三校舎の２階理科室を当てる事になった。同年四賀村役場庁舎も同時に新築されている。

平成12年(2000)12月18日木造校舎お別れ式以降、解体



第四校舎南面　出典「木造校舎」



右：第四校舎から第三校舎への渡廊下の石階段。
出典「木造校舎」

オ．その他の施設

体育館・音楽室

昭和28年(1953)入札により両棟五常村草田宗一氏が落札し請負決定

昭和29年(1954)3月工事完成

(ア)体育館　鉄骨造平屋建

床面積1,036㎡(耐震調査時面積)

ステージ・体育準備室2室

鋼材をトラス状に組んだフレームで構成し大スパンを確保している。

曳家前の第二校舎が建築されていた位置。

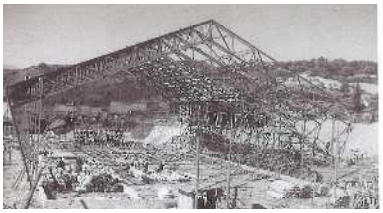
印象的な赤い屋根の体育館で同年第一回卒業式が行われた。

(イ)音楽室　木造平屋建て

床面積124㎡(耐震調査時面積)

校舎の建つ敷地の中で、最も高い位置に建設され、階段状の吹抜渡り廊下で繋がれていた。高低差を利用した床が階段状の教室であった。

平成12年(2000)12月18日木造校舎お別れ式以降、解体





左：昭和28年10月鉄骨建て方　右：外観　出典「木造校舎」

下：赤い屋根の体育館と音楽室
出典「百四十年閉校記念誌会田小学校」



5　まとめ

旧会田中学校第三校舎調査報告書をまとめるに当たり、明治からの教育史も併せて紐解くことになった。開国し外国と肩を並べるため子供たちへの教育にも力を注いだことは、国民にとって幸いなことであった。長野県では廃藩置県後の筑摩県時代、初代権令永山盛輝の熱心なすすめによる影響が大きく、国宝旧開智学校校舎は代表例である。四賀地区でも早い段階で学校建設を進め、明治10年（1877）には８校が開校する。校名は村名でなく思い思いの校名が付けられ、成長を願う学童への期待が伝わってくる。

戦時中には国民学校と呼び名が変わり重い時代を経験するが、終戦後に連合軍の指令を受け、教育が改革される。新制中学校建設地では議論されるが四ヵ村が団結して、村組合立の中学校建設となり、四賀村発足に伴い四賀村会田中学校となる。第三校舎玄関の妻壁に附された校章は、山村をモチーフとした山を四つ組み合わせ、その成立と協同の精神を象徴している。

三四半世紀も地域に馴染んだ木造校舎を見ると、だれもが思い出や懐かしさを感じる事だろう。村民の思いもあり校舎は現在まで残されていた。残念だが、人が使用しなくなった建物は朽ちていく。懐かしさだけでは保存は難しい。ここに、先人の思いと第三校舎の価値を記録として残した。

6　参考文献

・『四賀村誌』
信毎書籍印刷株式会社
四賀村誌編纂会　代表者会長堀内信勝（編集者・発行者）四賀村役場　代表村長久保田孝義
昭和53年　3月1日発行(1978)

・『會田學校　開校八十年誌』　東筑摩郡會田小學校　第七學校思誠館
会田小学校内　長瀬修作（編集兼発行人）　会田村　會田小學校（発行所）
昭和19年　4月19日（1944）

・写真集『木造校舎』四賀村立会田中学校
四賀村教育委員会（発行）　会田中学校（編集）　平成11年10月　7日発行(1999)

・『四賀村立会田中学校　五十年誌』　平成15年　1月20日発行(2003)

・『しがむら公民館報』四賀村公民館（発行）

・『松本市立会田小学校　百四十年閉校記念誌』～ささえ愛ながら～
会田小学校閉校記念実行委員会記念誌刊行部（編集）松本市立会田小学校（編集）
平成25年　3月31日発行(2013)

7　写真

調査時

玄関ポーチ



第三校舎西面玄関ポーチ



玄関ポーチ南　腰壁：鉄平積貼



玄関ポーチ



玄関ポーチ天井



事務室受付窓



玄関ポーチ脇渡廊下

外観



北面



東面



南面防火措置部分



横板張



南面渡廊下接続部



第四校舎への渡廊下階段

内観



玄関ホール北第二校舎への渡廊下出入口



事務室



職員室



職員室水色の扉は事務室への入口



職員室出入口



校長室



放送室入口



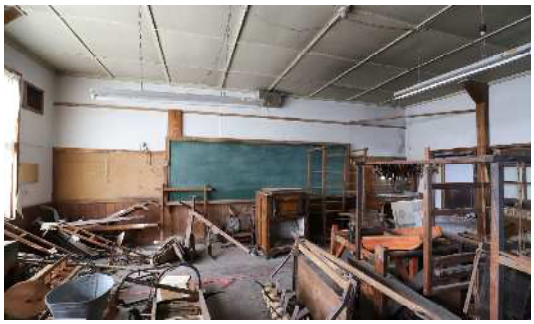
放送室



保健室入口



保健室北面



保健室西面



保健室東面



掲示板



第四校舎への接続廊下



和裁室入口



和裁室北面



和裁室床の間



和裁室畳式と床板



会議室入口



会議室北面



情報室入口



情報室西面

階段室



１階上り口



踊場



２階より踊場を見る



階段腰壁手摺



縦板張腰壁



２階階段ホール



階段下倉庫

8　解体中調査

(1)目的

本調査は、令和６年度（2024）実施の調査において確認できなかった木造軸組について再調査を行い、その結果を基に矩計図を作成することを目的として実施したものである。

解体工事は令和７年（2025）11月13日着手から令和8年（2026）2月13日完了

解体工事期間中、構造体確認が可能な工程において、請負工事業者である株式会社草田組の協力のもと、工事を一時中断し、現場立会のうえ構造体の確認を実施した。

確認箇所は、基礎、1階床組、2階床組および小屋組である。

現場確認は、事前調査を含め５回実施した。



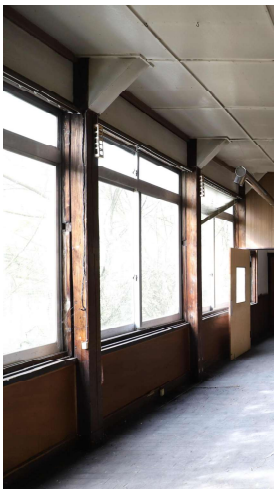


(2)構造軸組み調査

令和7年（2025）12月20日

解体工事業者との解体工事期間の立会日程に関する調整会議を実施するとともに、内部仕上の一部を撤去のうえ、調査を実施した。

ア）２階床の丸太梁を支持する目的で設置された添え柱。


イ）１階天井裏から２階床の構造状況を確認し、あわせて階高の実測をおこなった。



ウ)2階床組みの構成および状況確認のため、２階床の一部を開口し確認を行った。



(3)屋根瓦・外壁調査

令和8年（2026）1月15日

解体工事足場の設置後、屋根および外壁廻りについて外部から調査を実施した。また、外壁の軒廻りにおける漆喰部分ならびに板張り部分の寸法を計測した。

ア）屋根瓦の一部を撤去のうえ、防水用薄板木材および瓦桟への取付状態と野地板を確認した。





イ)妻側軒下部分の木摺下地と漆喰塗の状態を確認するとともに、木製小屋裏換気ガラリの機能を確認した。





ウ)外壁板張り部分より内壁を確認。内壁は木摺下地の漆喰仕上げが施され、腰板が張られている。





（４）中間調査

令和8年（2026）1月25日

解体工事中間期に構造材の採寸調査を実施した。小屋組みは木造トラス構造で、2階床梁には口径の大きい丸太梁か確認できた。

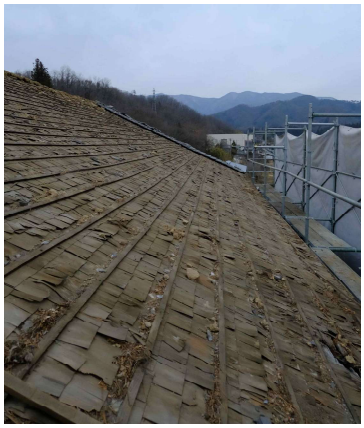
ア）スパン10ｍほどのキングポストトラスを確認。トラス・丸太梁の方杖を確認した。





イ）屋根瓦撤去後、瓦桟および防水用薄板下地（厚み約1mm）を確認した。





ウ）屋根瓦の防水材と使用されていた瓦下地材。材種：サワラと推測する



小板

寸歩　　120×240　厚み約2ｍｍ

エ）小屋組みはキングポスト・トラスで構成され、2階和裁室のスパン10mの無柱空間の屋根を支持していた。





オ)トラス芯束周辺と直行する振れ止





カ)トラストと直行する二重軒桁と筋違の収まり部分



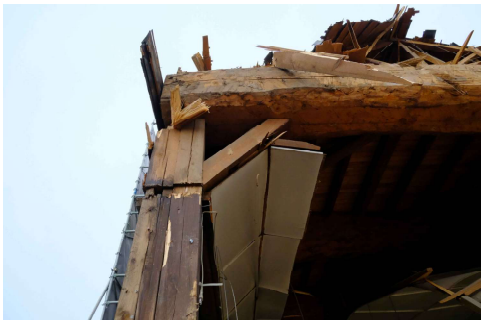


右写真：二重桁に直行するトラス下弦梁と火打梁

キ）２階床組は松丸太（直径500ｍｍ程度）に直接根太組を施し、方杖で補強している。



南側添え柱の方杖は柱の座屈防止を目的とした補強と考えられ、壁際の斜め天井はこれを隠すための意匠的配慮と推測する。



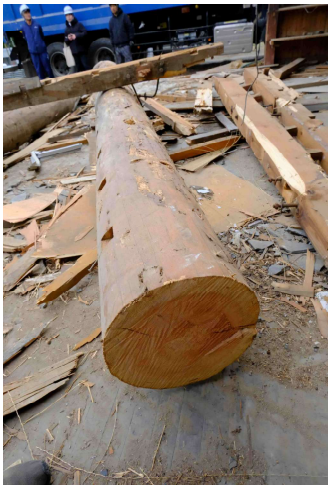
ク）２階床下の火打梁と床組み根太





ケ）２階床梁に使用された松丸太梁







コ）１階床組み。土台と火打土台





(5)基礎調査

ア)布基礎、束石は自然石の丸石

写真資料提供：株式会社草田組





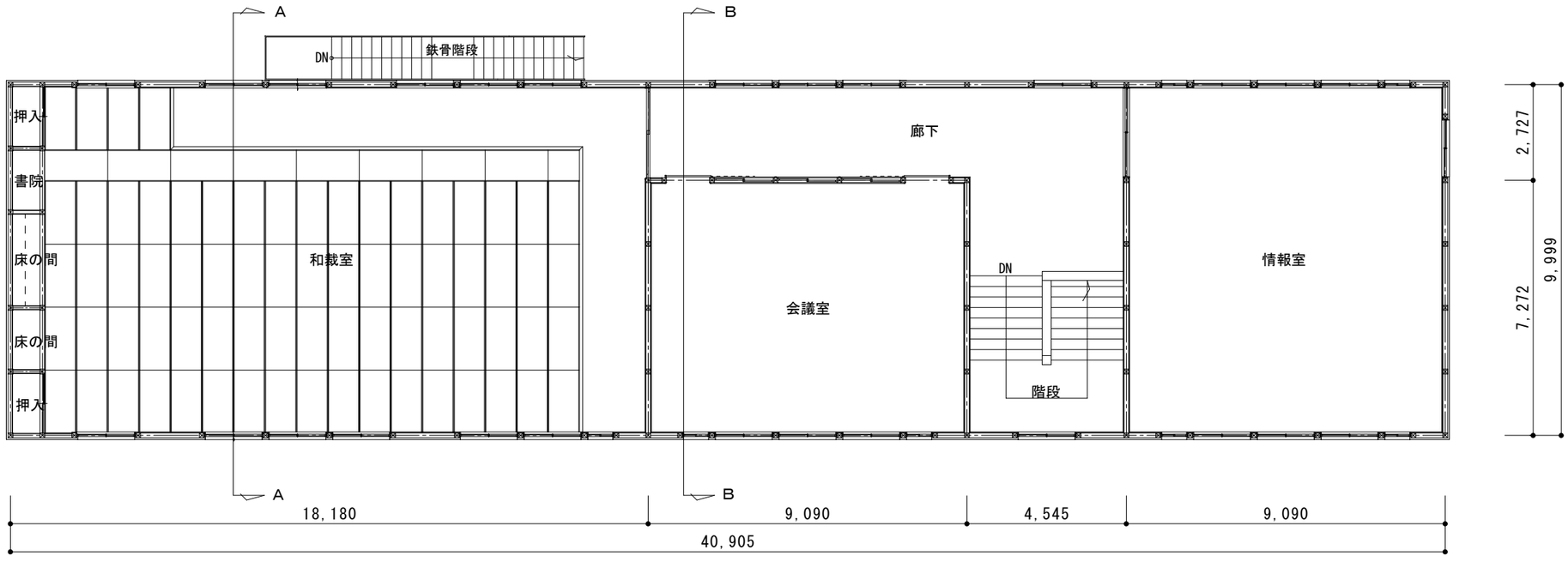
イ)布基礎無筋コンクリート。フーチングを確認した。



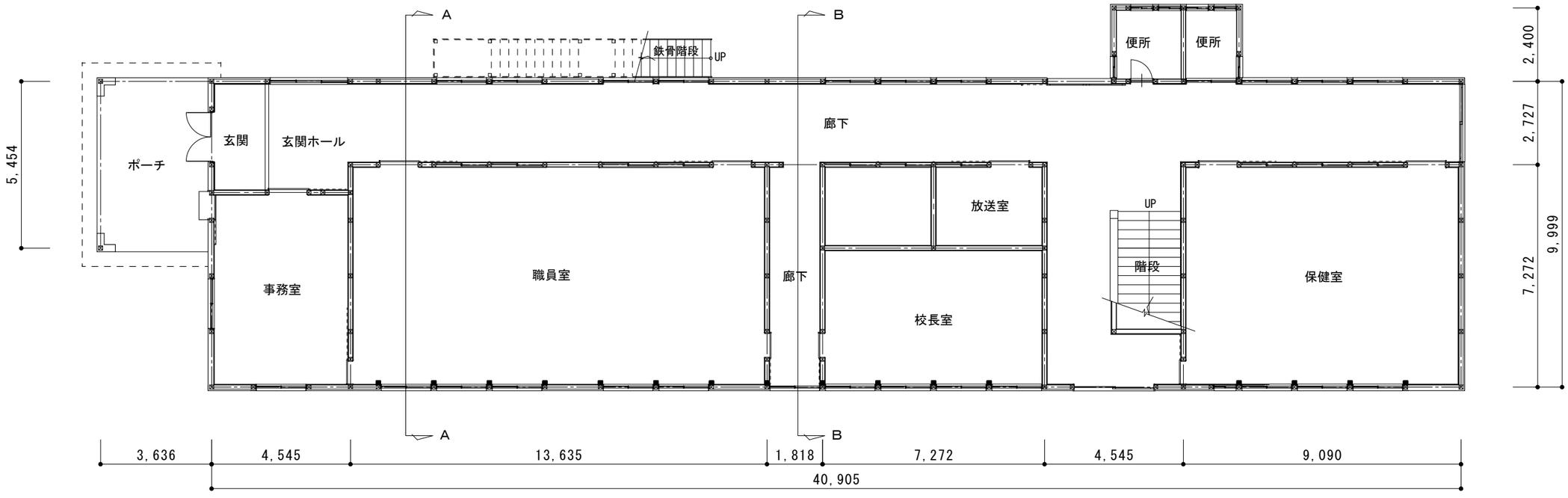


ウ)整地終了　令和8年（2026）1月28日撮影

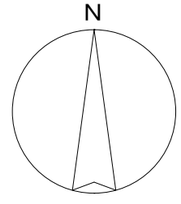




２階平面図　Ｓ：1/200



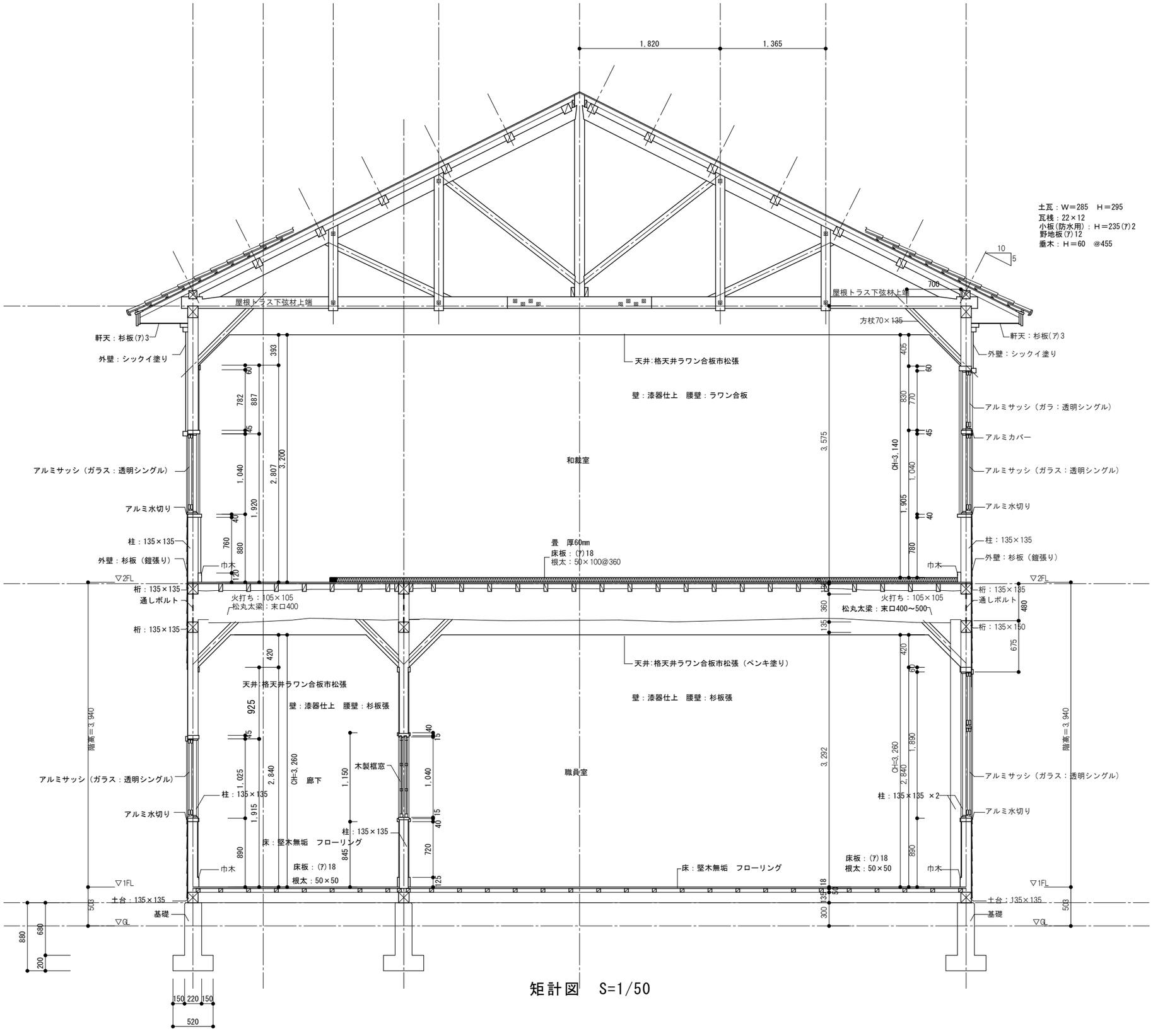
１階平面図　Ｓ：1/200



凡例　添え柱追加部分

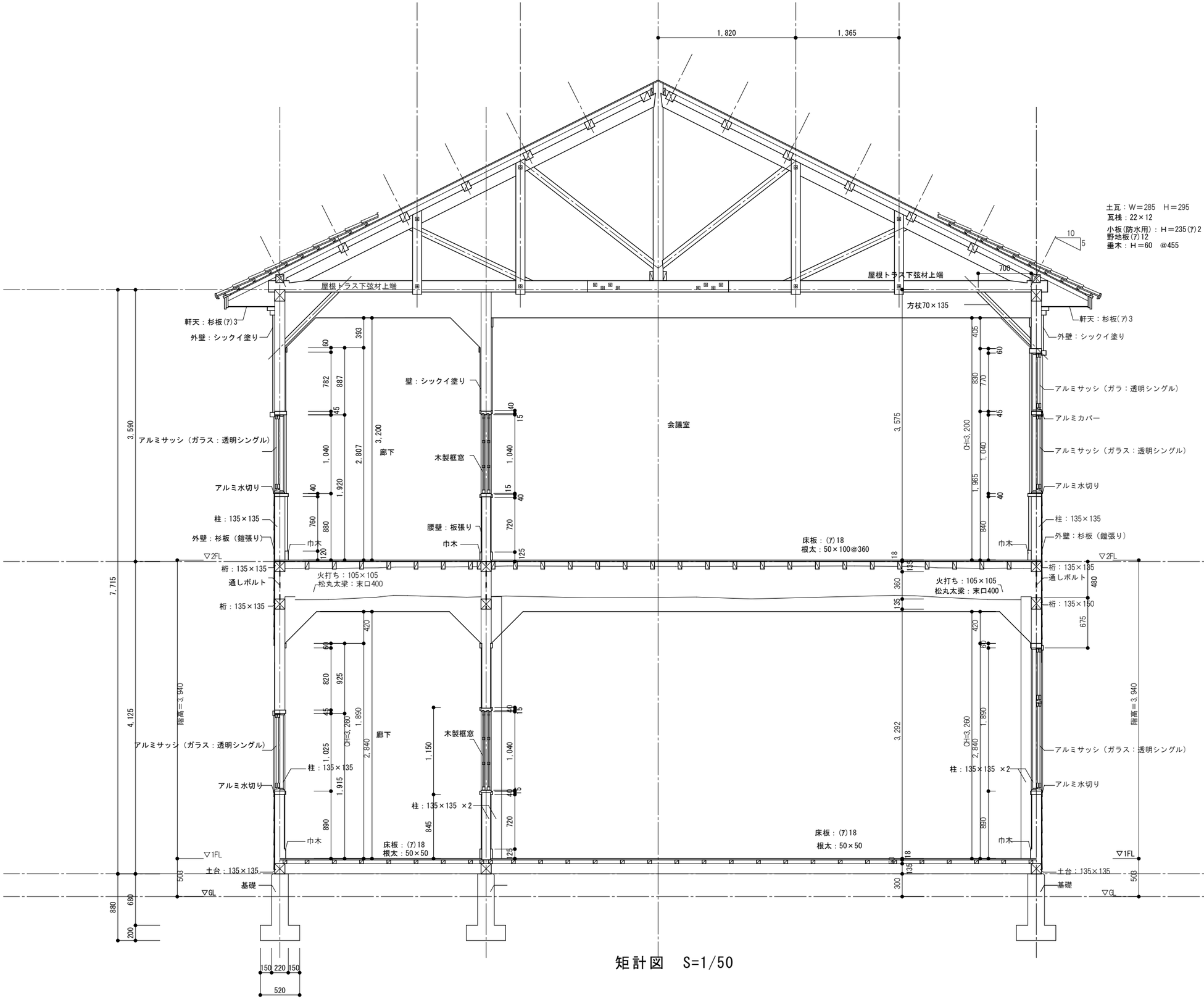
R8.2月修正

旧会田中学校校舎第三校舎	１階・２階平面図	S＝1/150	R7.1月作成



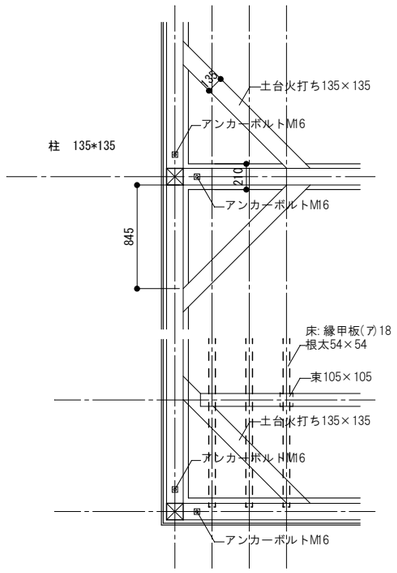
矩計図　S=1/50

旧会田中学校校舎第三校舎	Ａ－Ａ　矩計図-1	S＝1/50	R8.2月作成

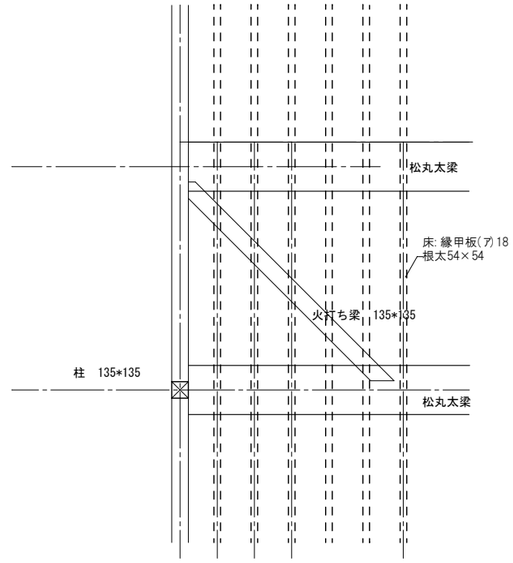


矩計図　S=1/50

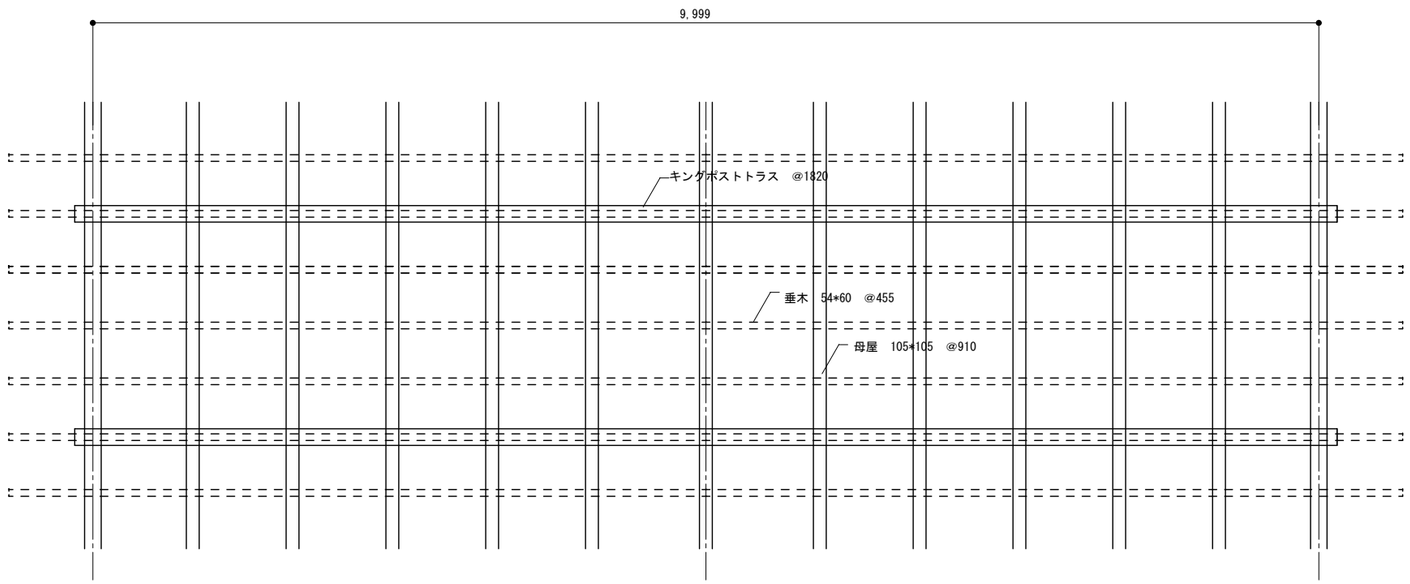
旧会田中学校校舎第三校舎	B－B　矩計図－2	S＝1/50	R8.2月作成



１階床伏図　S＝1/50

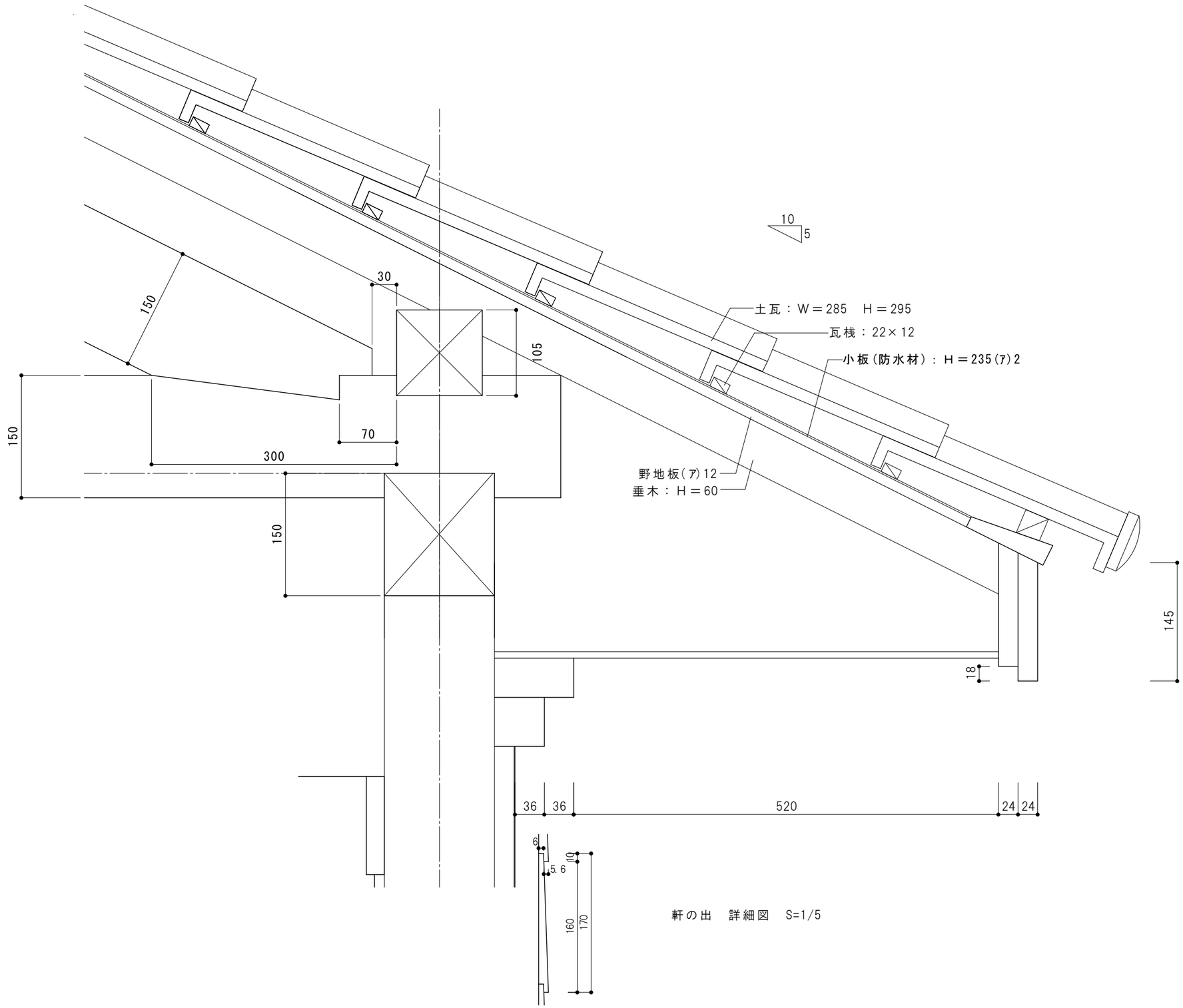


２階床梁伏図　S＝1/50



小屋トラス梁伏図　S＝1/50

旧会田中学校校舎第三校舎	軸組構造伏図	S＝1/50	R8.2月作成



軒の出　詳細図　S=1/5

外壁杉板鎧張り　詳細図　S=1/5

旧会田中学校校舎第三校舎	軒先部分詳細	S＝1/5	R8.2月作成

資料

類例建造物

旧上田小学校　名称：木曽町立上田小学校

建設年　昭和27年（1952）

所在地　木曽町新開

木造2階建て

床面積　　1階441.35㎡　2階406.04㎡

合計　　847.39㎡



屋根　スレート葺き　　外壁　横板張り　一部軒下廻り　漆喰仕上

地元の企業が閉校となった校舎を利用し、地場産材を使用した合板製造工場を整備する構想が進んでいる。